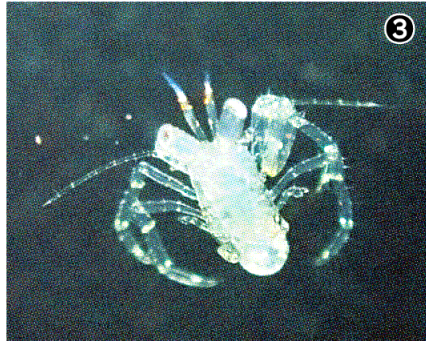




①

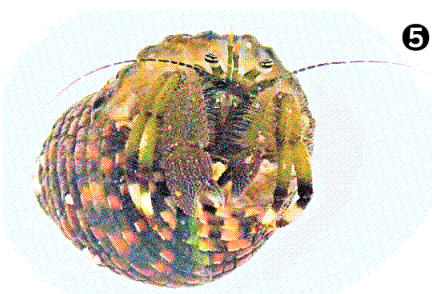


②



③

①貝殻を背負っていないホンヤドカリのメス。体が右向きにねじれています。おなかの黒い粒は卵で、約3週間でふ化します。脚ははさみ脚を含め10本あります②生後3日のゾエア幼生。大きさは約2ミリ③5ミリほどに成長したグラウコトエ幼生④稚ヤドカリになるとヤドカリらしい姿になります⑤おとなのホンヤドカリ



⑤



④

みなさんはヤドカリの赤ちゃんを見たことがあるでしょうか。実は、ヤドカリは生まれてしばらくは貝殻を背負っておらず、歩くこともありません。

ヤドカリのメスは、オスとの交尾でできた受精卵を貝殻に隠れた腹部の長い脚で抱え、ふ化するまで守ります。一度に抱える卵の数は数百から千を超えることも。卵のふ化と同時に赤ちゃんを海中に放ちます。

卵からかえったヤドカリの赤ちゃんは「ゾエア幼生」と呼ばれ、成体とは似ても似つかぬ形をしています。ゾエア幼生はプランクトンとし



ヤドカリ 成長につれ形が変化

海中を漂いながら生活します。ゾエア幼生は、脱皮を繰り返して「グラウコトエ幼生」と呼ばれる形に変わり、泳がずに海底を歩く時間が増えます。貝殻を見つけると、出たり入ったりするようになりますが、体はまだ左右対称で真つすな形をしています。数日経つとさらに脱皮し、巻き貝の貝殻に合うように腹部が右側にねじれて非対称になり、成体と同じ形の「稚ヤドカリ」になります。

このように、成長するにつれて体の形が変わることを「変態」と言います。ヤドカリの赤ちゃんは、みなさんの知っている姿になるまでに2回も変態するのです。

ゾエア幼生やグラウコトエ幼生は、海で他の生き物に食べられてしまふことも多く、無事に大きくなるのは、ほんの一握りだといわれます。ヤドカリを見かけたら、その成長の過程にも思いをはせてみてください。(学習交流係・二階堂梨沙)